

Press Release

2026年1月吉日

公益財団法人日本オペラ振興会 <https://www.jof.or.jp>

踊るか、叫ぶか あなたは、どっち派？

文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（公演創造活動）） | 独立行政法人日本芸術文化振興会

日本オペラ振興会総監督 郡 愛子
公演監督 齊田正子
副公演監督 川越塔子

藤原歌劇団公演

G.プッチーニ作曲

P.マスカーニ作曲

「妖精ヴィッリ」「カヴァレリア・ルスティカーナ」

オペラ全2幕 / オペラ全1幕(字幕付き原語（イタリア語）上演)



2026年1月31日(土)・2月1日(日) 14:00 開演

東京文化会館 大ホール

【開場13:00】 *13:30から会場内にて作品解説をいたします。※上演時間：約3時間（休憩含む）

●主催：公益財団法人日本オペラ振興会

公益財団法人日本演奏連盟 都民音楽フェスティバル主催：東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団

●助成：文化庁文化芸術振興費補助金（舞台芸術等総合支援事業（公演創造活動）） | 独立行政法人日本芸術文化振興会、公益財団法人ローム ミュージック ファンデーション

●後援：日伊協会、イタリア文化会館

本公演に関するお問い合わせ、および取材のお申込み

公益財団法人日本オペラ振興会 広報担当：外山・堀内

〒215-0035 神奈川県川崎市麻生区黒川76-1

Tel: 044-819-5505 / E-mail: press@jof.or.jp

幻想と現実に生きた二人の女性の世界線。
美しく壊れる感情に、あなたは共感する――

イタリア近代オペラを彩った二人の作曲家、プッチーニとマスカーニ。
彼らの劇的で重厚な音楽により、二人の女性の心が同じ痛みでつながっていく。
情感溢れる激しい音楽を指揮する柴田真郁と、異なる世界に生きる女性の逞しさを演出する岩田達宗。
重くエグく美しい、人間の本性に迫るダブルビル公演。踊るか、叫ぶか、あなたはどっち派？

〈ものがたり〉

「妖精ヴィツリ」

第1幕

南ドイツのシュヴァルツヴァルト（黒い森地方）の話。時代は恐らくは中世。村の男グリエルモ（Br）は愛らしい娘アンナ（S）が自慢の種。彼女には婚約者の青年ロベルト（T）も居る。ある日、ロベルトは親戚の遺産を相続すべくマインツの町に赴くことになり、村人たちが彼の出立を祝う。しかし、アンナはなぜか胸騒ぎを覚え、ロベルトに「貴方が旅立った後に、私が死ぬという夢を見たの」と語る。ロベルトはその言葉に戸惑うものの、「愛しているよ。疑わないでくれ」と彼女を慰める。グリエルモや村人们は、旅立つロベルトを盛大に見送り、彼の無事を祈る。

間奏曲

(第1部) 「L'Abbandono 失意」と題され、最初は柔らかい響きのもと、舞台裏から女声合唱が「清らかな乙女の顔は、月光のように蒼白い」と歌い、アンナが息を引き取ったことを暗喩する。

(第2部) 「La Tregenda 魔女の饗宴」と題され、曲調が一変。女性を裏切った男を罰すべく、踊りに巻き込んでその命を奪うという妖精たちの姿を劇的に描く。

第2幕

グリエルモは、娘アンナの死を悲しむ余り、妖精ヴィツリたちに「復讐してくれ」と願う。すると突然、妖精たちの声が舞台裏から響き渡り、「裏切り者が帰って来たよ」と合唱。ロベルトが現れ、自分の所業を深く悔やむ。しかし、妖精たちは「罪深い男め！歩け！歩け！」と彼をさينamu。するとアンナの声が響き渡り、ロベルトに「あなたは私を死なせた！」と告げる。ロベルトはなおも後悔するが、妖精たちは「許されることはない！」と彼を拒絶し、踊りの輪の中に彼を引き込む。やがて、アンナの魂の前で、ロベルトは「アンナよ、憐れみを！」と言ってこと切れ、妖精たちは「ホザンナ！」と喜びの声を挙げる。

— 見どころ・聴きどころ —

まずは、抒情的な前奏曲に注目。親しみやすいメロディと、聴き手の耳を和ませるような柔らかい曲調が特徴的である。続いて、第1幕では、アンナのロマンツア〈もしも私がお前たちのよ

うに小さな花であったのなら *Se come voi piccina io fossi* が彼女の純真さを象徴。コンサートでも時々歌われる纏まりの良い一曲であり、終盤で繰り返される言葉「私のことを忘れないでね Non ti scordar di me!」が、彼女の情熱が高まるさまを裏打ちする。また、ロベルトとアンナの二重唱〈そんなに悲しいことはないさ Non esser〉も、若い二人が飾らぬ想いをストレートにぶつけ合うメロディアスな聴かせどころである。

次の間奏曲では構成が2部に分かれ、前半の〈失意 L'Abbandono〉でのしなやかで繊細な響きと、後半の〈魔女の饗宴 La Tragenda〉での飛び跳ねるような音型の畳みかけ&激しく逞しいリズムが対照の妙を成すあたりをお楽しみ頂きたい。



1990年公演 稽古の様子

続く第2幕は、前奏曲とシェーナと銘打たれた一場から。娘を失いとぼとぼと歩く父親の背中を連想させる短い序奏と、その父グリエルモが、〈いや！そんなことはあり得ない No, possibile non è〉と苦渋の想いを吐露する「苦みばしった曲調」が、歌のドラマを雄弁に呈示する。続いては、「劇的なシェーナ」（実質的には大規模なアリア）と題されるロベルトのソロ〈ここがあの家 Ecco la casa〉を。この曲もリサイタルで歌われることの多い名旋律であり、自らの行いを悔いる彼の胸中が、テノールならではの煽情的な歌いぶりで示される。

そして、幕切れの二重唱では、女声コーラスがヴィツリ、男声コーラスが精霊たちと、混声合唱でそれぞれの呼びかけが届く中、裏切り者を責めずにはいられないアンナの無念さと、それをひたすら聴くロベルトの苦悩ぶりがドラマティックなフィナーレを導き、間奏曲の旋律がコーラスで再現されるなか、アンナの最後のひとこと「あなたは私のものよ！ Sei mio！」が亡靈の勝利を告げ、合唱の〈ホザンナ！〉の爆発的な勢いのもと、幕となる。

「カヴァレリア・ルスティカーナ」

第1幕

19世紀の後半、シチリア島のある村の若者トゥリッドウ (T) は、軍隊に行くまえに恋仲であった女性ローラ (Ms) がいまは馬車屋アルフィオ (Br) の妻になっているという状況のもと、恋の想いを抑えきれずにいる。しかし、彼は別の女性サントウツツア (S または Ms) とも関係を結んでおり、サントウツツアは恋人の心が自分にはないと気づいて苦しみ悶えている。

夜が明けて教会の鐘の音が鳴り響くと、村人たちが現れ、復活祭の日を祝い、教会の中へと徐々に入ってゆく。しかし、トウリッドウの母で酒場を経営するルチア(Ms)は店の準備に忙しい。そこに現れたサントウツアは、辺りをはばかりながらトウリッドウの行方を尋ね、ルチアの前で「私は破門された身です」と涙をこぼす。そこには恐らく、結婚前に男に身を任せた女性として、教会から破門されてもしょうがないという意味合いが込められている。

すると、馬車屋アルフィオが賑やかに登場。人々の前で、妻のローラにほれ込んでいる様を景気よく歌い上げたのち、ルチアに向かって「お前の息子さんがうちの家の辺りをうろついていた」とさらっと言ってのけるので、色をなすルチアをサントウツアが「黙って！」と静止。教会から聴こえるオルガンの音色に合わせて人々が熱心に祈りを捧げるなか、サントウツアとルチアも外の広場から歌に加わり、祈りの声を挙げる。

しかし、人々がみな教会に入ってから、サントウツアはルチアの前で、トウリッドウと抜き差しならぬ仲になっていると告白。「ローラがそれに嫉妬して、またトウリッドウを誘惑したのです」と赤裸々に伝える。老母ルチアはなすすべもなく、教会に入る。

ところが、そこにトウリッドウ本人が現れる。彼は教会に入ろうとするが、サントウツアが引き留め、とげとげしい言葉でやりあっていると、ローラが着飾って現れ、サントウツアを軽くあざ笑ってから教会に入る。激昂したサントウツアは、自分を突き飛ばしたトウリッドウに呪いの言葉を投げつけ、そこに倒れ伏す。

すると、アルフィオがやってくる。急いで教会に入りたい彼に向かい、サントウツアは自分が知る真実をすべて伝える。シチリアの男として侮辱されたからには報復をしなければならない。怒りに燃えて彼は走り去る。

ここで、有名な間奏曲が午睡のひとときのように、静かに柔らかく鳴り響いてから、ミサを終えた人々が広場に出てくる。トウリッドウは男たち酒を勧めるが、彼が出した杯をアルフィオは拒絶。緊張の空気が流れてから、トウリッドウがアルフィオに抱き着き、右の耳たぶを噛む。それが決闘の申し入れであるが、トウリッドウはそこで「サントウツアを独りにしたくはない。だから、ナイフで心臓を一突きにしてやる！」と言ってのけ、アルフィオは「裏で待っている」とそれに応じる。

トウリッドウはそこでルチアを呼び出し、別れの言葉をそれとなく告げ、「自分が戻らなければ、可哀そうなサントウツアの母親代わりになって欲しい」と言い残して去る。息子の異変を感じ取った母が、現れたサントウツアと抱き合っていると、「トウリッドウが殺された！」と叫ぶ女の悲鳴が聴こえてくる。ルチアとサントウツアは卒倒する。

— 見どころ・聴きどころ —

まず、前奏曲は弦の音色の密やかな重なりから始まるも、シチリア人の血氣盛んなさまがシンバルの強烈な衝突音に象徴されたのち、舞台裏からのトウリッドウの流麗なシチリアーナ〈野ばらのように色白のローラよ〉がハープのみの伴奏で歌われる（ここの歌詞は、シチリア方言と標準のイタリア語と二通り用意されていて、自由に選べる）。

続いて、素朴な合唱曲〈オレンジ色の花が *Gli aranci olezzano*〉が村たちの純朴な姿を映し出し、ルチアとサントウツアの緊迫感溢れるやり取りを挟んで、シチリアの男らしい豪快なアルフィオのアリア〈駒は勇んで *Il cavallo scalpita*〉が場面の空気を一気に変える。その後、教会内からの祈りのコーラス〈天の元后 *Regina*〉が響き渡ると、外に居る人々やサントウツアとルチアも唱和。オルガンの音色と共に壮大な祈りの歌が繰り広げられる。



1986 年公演の様子

しかし、誰も居なくなった広場では、サントウツツアがアリア〈あなたもご存じです、お母さん *Voi lo sapete, o mamma*〉を絶唱。逐一変化する感情を劇的に訴えてゆく。その場からルチアが去ると、入れ替わりに現れたトウリッドウがサントウツツアと鉢合わせ。喧嘩の二重唱〈サントウツツア、お前がここに？ *Tu qui, Santuzza?*〉を展開。激しい言葉の応酬が続くが、たまたま現れたローラが短いソロ〈グラジオラスの花よ *Fior di giaggiolo*〉を鼻歌気分で歌い、トウリッドウには上機嫌で呼びかけるもサントウツツアのことは小馬鹿にする。ローラが居なくなると喧嘩の二重唱が再び始まり、罵り合いの果てにトウリッドウはサントウツツアを突き倒す。怒りが頂点に達したサントウツツアは、当時のオペラとしては珍しい、あからさまな呪いの言葉「あなたに悪い復活祭を！ *A te la mala Pasqua !*」を吐き捨てる。

その後、通りがかったアルフィオに、サントウツツアがローラとトウリッドウの仲を告げ口。激烈な二重唱〈トウリッドウが私の名譽を奪ってしまいました *Turiddu Mi tolse l'onore*〉が繰り広げられる。続いて、オペラ全編で最も有名なくだりとして、間奏曲が奏され、様々な葛藤を抱えつつも、人々が日常を過ごしてゆくさまが、河の流れのようにゆったりと表現される。



1986 年公演の様子

続いて、人々が教会から出でると、トウリッドウの〈乾杯の唄：ばんざい、泡立つ葡萄酒よ！ *Viva il vino spumeggiante*〉が歌われ、合唱が曲調を盛り上げる。しかし、アルフィオがトウリッドウの杯を断ると空気は一変。決闘の申し入れが行われた後、死を自覚したトウリッドウ

がサントウツツアへの憐憫の情を蘇らせ、母親ルチアに歌を〈かあさん、あの酒は強いね Mamma, Quel vino è generoso〉を捧げ、辞世のアリアとして歌い上げてから走り去る。なお、幕切れで二人の女性がセリフ調で叫び合う「教父トゥリッドウが殺された Hanno ammazzato compare Turiddu」に人々が驚き、オーケストラが全速力で幕切れを奏する様は、このオペラの「身も蓋もない現実味」の象徴として鳴り響き、オペラ史が「生々しさ重視」の新時代を迎えたさまを体現する。

●チケット好評発売中！

S席 ¥20,000 A席 ¥17,000 B席 ¥14,000 C席 ¥11,000 D席 ¥7,000 E席 ¥3,000 (税込)

- ・青春割引：B席～E席を2,000円（25歳以下／枚数限定）
- ・ヤング・フレッシュマンチケット：S席・A席を半額（25歳以下／枚数限定）
- ・障がい者割引：S席～C席を20%割引（要お問い合わせ／枚数限定）

●お問い合わせ・予約

日本オペラ振興会チケットセンター 044-819-5550（平日 10:00～18:00）

【座席選択可・PC&スマートフォン】<https://p-ticket.jp/ticket/show/Villi0131/schedule>

〈主要キャスト・スタッフプロフィール〉

指揮 柴田真郁

Maiku SHIBATA

1978年東京生まれ。国立音楽大学声楽科を卒業。ウィーン国立音楽大学マスターコースでディプロム取得。リセウ大歌劇場（バルセロナ）のアシスタント指揮者を務め、欧州各地の劇場で研鑽を積む。帰国後は主にオペラ指揮者として活動。藤原歌劇団、日生劇場、新国立劇場オペラ研修所などで指揮。2010年池辺晋一郎『死神』を日本オペラ協会の演奏会で振る。同年、五島記念文化財団オペラ新人賞（指揮）受賞。近年では管弦楽にも力を入れ、日本各地のオーケストラと共に演し好評を博す。2023年に指揮した、ひろしまオペラルネッサンス公演『フィガロの結婚』が第22回（2024年度）佐川吉男音楽賞・奨励賞を受賞。



現在、大阪交響楽団ミュージックパートナー。

演出 岩田達宗

Tatsuji IWATA

東京外国语大学フランス語学科卒業。劇団「第三舞台」を経て、舞台監督集団ザ・スタッフに参加し、オペラの舞台製作にかかわる。1991年より栗山昌良氏に演出助手として師事。五島記念文化財団奨学生として1998年より欧州各地で研鑽を積む。帰国後、本格的に演出家として活動を始め、新古典主義の作品から現代の日本オペラまで数多くの公演で高い評価を得る。藤原歌劇団では2007年「ラ・ボエーム」で初演以降「ラ・ジョコンダ」「ルチア」「夢遊病の女」「ラ・トラヴィアータ」「カルメン」「ドン・ジョヴァンニ」「ジャンニ・スキッキ」を手掛け、日本オペラ協会では2001年「キジムナー時を翔ける」でデビュー以降「葵上」「美女と野獣」「天守物語」「よさこい節」「夕鶴」「魅惑の美女はデスゴッデス!(死神)」「源氏物語」「ニングル」等、独創的で卓抜なアイデアによる舞台造りは聴衆を魅了し続けている。リモートによる講義「岩田達宗道場」が開講されるなど、現在日本を代表するオペラ演出家の一人である。第7回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。06年度音楽クリティック・クラブ賞受賞。



大阪音楽大学特任教授。武蔵野音楽大学特任教授。兵庫県出身。

アンナ役 (1/31) 砂川涼子

Ryoko SUNAKAWA

武蔵野音楽大学卒業、同大学大学院修了。2001年より第10回(財)江副育英会オペラ奨学生として、2005年より五島記念文化財団の奨学生として渡伊。第34回日伊声楽コンクール優勝。第69回日本音楽コンクール第1位。第12回リッカルド・ザンドナイ国際声楽コンクールでザンドナイ賞受賞。00年新国立劇場小劇場オペラ「オルフェオとエウリディーチェ」で本格的デビュー。イタリアで研鑽を積みながら、01藤原歌劇団に「イル・カンピエッロ」のガスパリーナでデビュー。藤原歌劇団には、「ラヌスへの旅」「ラ・ボエーム」「フィガロの結婚」「道化師」「ラ・トラヴィアータ」などに出演し、常に絶賛されている。日本オペラ協会には、「キジムナー時を翔ける」で初登場し、「源氏物語」「夕鶴」「静と義経」に出演。新国立劇場では、「トゥーランドット」「ドン・ジョヴァンニ」「ドン・カルロ」と出演を重ね、同劇場「カルメン」「魔笛」「ホフマン物語」「夜叉ヶ池」「ウェルテル」「ジャンニ・スキッキ」など、容姿・実力を兼ね備えた歌唱は常に高い評価を得ている。CD「砂川涼子／ベルカント」好評発売中。第16回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。



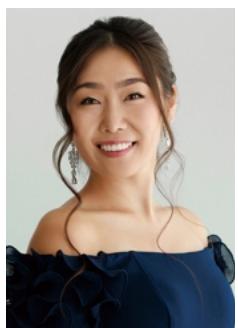
藤原歌劇団団員。日本オペラ協会会員。武蔵野音楽大学非常勤講師。沖縄県出身。

アンナ役（1/31）迫田美帆

Miho SAKODA

東京藝術大学卒業。サントリーホール オペラ・アカデミー・アドバンスト・コース第2期修了。第50回日伊声楽コンクール、第13回東京音楽コンクール声楽部門第2位。第86回日本音楽コンクール声楽部門入選。

藤原歌劇団には、2019年「蝶々夫人」のタイトルロールで鮮烈なデビューを飾って高評を博して以降、「フィガロの結婚」「イル・カンピエッロ」「コジ・ファン・トゥッテ」「ラ・トラヴィアータ」で好評を得るなど、実力派若手ソプラノとして注目を集めている。また NISSAY OPERA 2021「ラ・ボエーム」(日本語訳詞上演)ミミ、東京文化会館 Music Program TOKYO シアター・デビュー・プログラム「ショパン」フローラ、兵庫県立芸術文化センター「蝶々夫人」、東京文化会館オペラ BOX「トスカ」で出演。ソリストとしては、G.サッバティーニ指揮/「第九」、ロッシーニ「小莊巖ミサ曲」に出演する他、東京フィルハーモニー交響楽団、神奈川フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団の「第九」ソプラノソロを務めるなど各方面で活躍している。23年、アメリカ・ジョージア州にて開催されたサバンナ・ボイス・フェスティバルにて「蝶々夫人」で海外デビューを果たした。



藤原歌劇団団員。東京都出身。アメリカ在住。

サントウツツア役（1/31）桜井万祐子

Mayuko SAKURAI

名古屋芸術大学卒業。在学中にマスタークラスを受けた名古屋芸術大学客員教授 G. チャンネッラ氏の勧めで 2008 年に渡伊。オジモ・アルテ・リリカ・アカデミーに 1 年間在学し、15 年国立ミラノ・ヴェルディ音楽院卒業。12 年ルクセンブルク・ネイ・シュティンメン声楽コンクール第 3 位。09 年にイタリアデビュー。スイス・ルガーノにて「絹のはしご」「フィガロの結婚」、ルクセンブルクにて「フィガロの結婚」、ミラノにて「リゴレット」等、各地で舞台に立つ。14 年のイタリア・トッレ・デル・ラーゴのプッチーニ音楽祭で、「蝶々夫人」の続編として三枝成彰氏によって作曲された「Jr.バタフライ(伊語版)」において、現地オーディションを経て唯一の日本人キャストとしてスズキに抜擢され成功を収める。



藤原歌劇団には、「カルメン」「イル・トロヴァトーレ」に出演。その他、スペインのセビリヤ及びドイツのオペラ・クラシカ・ヨーロッパにて「カルメン」タイトルロール、韓国・大邱国立歌劇場及びドイツ・ボン歌劇場にて「蝶々夫人」スズキ、イタリア・オペラエスター音楽祭「イル・トロヴァトーレ」アズチーナ等、メゾ・ソプラノの主要な役で活躍を続けている。

藤原歌劇団団員。愛知県出身。ミラノ在住。

サントウツツア役（2/1）小林厚子

Atsuko KOBAYASHI

東京藝術大学卒業、同大学大学院修了。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部修了。文化庁芸術インターンシップ研修員。文化庁新進芸術家海外留学制度研修員としてイタリアで研鑽を積む。藤原歌劇団にデビュー後、諸役を経て 07 年「蝶々夫人」に抜擢されタイトルロールデビュー。その後同役は度々演じているほか、「ナヴァラの娘」(日本初演)「イル・トロヴァトーレ」「トスカ」に出演し高い評価を得た。これまでに、各地で「フランチェスカ・ダ・リミニ」「蝶々夫人」「マリア・ストゥアルダ」「マクベス」「トスカ」「ナブッコ」「ドン・ジョヴァンニ」「アイーダ」「アンドレア・シェニエ」などで出演を重ねている。



15 年イタリア・ビントトでのトラエッタオペラフェスティバル「蝶々夫人」で、トラエッタ劇場及びクルチ劇場にてイタリアデビュー。新国立劇場に於いては、18 年「トスカ」千秋楽公演にて急遽代役でタイトルロールを務め、21 年には「ワルキューレ」「ドン・カルロ」に抜擢され登場、25 年には「蝶々夫人」タイトルロールを演じ、いずれも高評を得ている。

藤原歌劇団団員。財団法人地域創造登録アーティスト。東京藝術大学講師、日本大学芸術学部講師。長野県出身。

日本オペラ振興会総監督 郡 愛子
公演監督 斎田正子
副公演監督 川越塔子

藤原歌劇団公演
G.プッチーニ作曲「妖精ヴィッリ」
P.マスカーニ作曲「カヴァレリア・ルスティカーナ」
Giacomo Puccini / Le Villi
Pietro Mascagni / Cavalleria Rusticana
オペラ全2幕 / オペラ全1幕 (字幕付き原語 (イタリア語) 上演)

【公演日程】2026年1月31日(土)・2月1日(日) 14:00 開演

【会場】東京文化会館 大ホール

【チケット料金】S ¥20,000 A ¥17,000 B ¥14,000 C ¥11,000 D ¥7,000 E ¥3,000 (税込)

日本オペラ振興会総監督	郡 愛子
General Artistic Director	Aiko KORI
公演監督	斎田正子
Production Artistic Director	Masako SAIDA
副公演監督	川越塔子
Assistant Production Artistic Director	Toko KAWAGOE
指揮	柴田真郁
Conductor	Maiku SHIBATA
演出	岩田達宗
Stage Director	Tatsuji IWATA

「妖精ヴィッリ」 Le Villi

アンナ	砂川涼子	迫田美帆
Anna	Ryoko SUNAKAWA	Miho SAKODA
ロベルト	澤崎一了	所谷直生
Roberto	Kazuaki SAWASAKI	Naoki TOKORODANI
グリエルモ・ウルフ	岡 昭宏	清水良一
Guglielmo Wulf	Akihiro OKA	Ryoichi SHIMIZU
語り	豊嶋祐壹	
Montanari	Yuichi TOYOSHIMA	

「カヴァレリア・ルスティカーナ」 Cavalleria Rusticana

サントゥツァ	桜井万祐子	小林厚子
Santuzza	Mayuko SAKURAI	Atsuko KOBAYASHI
トゥリッドウ	笛田博昭	藤田卓也
Turiddu	Hiroaki FUEDA	Takuya FUJITA

ルチア	牧野真由美	米谷朋子
Lucia	Mayumi MAKINO	Tomoko MAIYA
アルフィオ	井出壮志朗	森口賢二
Alfio	Soshiro IDE	Kenji MORIGUCHI
ローラ	丹呂由利子	高橋未来子
Lola	Yuriko TANGO	Mikiko TAKAHASHI

合唱 藤原歌劇団合唱部 Fujiwara Opera Chorus Group
 管弦楽 東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

合唱指揮	安部克彦
Chorus Master	Katsuhiko ABE
美術	松生絃子
Scenery Designer	Hiroko MATSUO
衣裳	下斗米大輔
Costume Designer	Daisuke SHIMOTOMAI
照明	大島祐夫
Lighting Designer	Masao OSHIMA
振付	古賀 豊
Choreographer	Yutaka KOGA
舞台監督	菅原多敢弘
Stage Manager	Takahiro SUGAHARA
副指揮	諸遊耕史、松村優吾
Assistant Conductor	Koji MOROYU、Yugo MATSUMURA
演出助手	手塚優子
Assistant Stage Director	Yuko TEZUKA

公演特設サイト https://www.jof.or.jp/performance/2601-villi_cavalleria_tokyo

【お問い合わせ・予約】

日本オペラ振興会チケットセンター 044-819-5550 (平日 10:00~18:00)

【チケット販売所】

- チケットぴあ : <https://t.pia.jp/> (P コード : 287-132)
- イープラス : <https://eplus.jp>
- ローソンチケット : <https://l-tike.com/> (L コード : 33320)
- teket : <https://teket.jp/9911/50217>
- 東京文化会館チケットサービス : 03-5685-0650